

令和元年度 教育活動等に対する学校評価書

令和2年3月7日

学校法人めぐみ幼稚園 めぐみこども園長 山田典子

学校法人めぐみ幼稚園 学校関係者評価委員長 佐藤真希

1 幼稚園の教育目標

昭和22年創立以来、キリスト教の「愛の精神」を根底におき、乳幼児の発達に相応しい心の教育を行っている。共に喜び、共に育ち合うために、保育者は一人一人の内面を理解し温かくきめ細やかな援助を行う。また、主体性や協同性を発揮して遊べる環境を構成し、生きる力の基礎を培うことを目標とする。平成27年度より幼保連携型認定こども園 めぐみこども園に移行したが、創立の精神は大切に守っている。

1. 子ども自身が大切な存在として受け入れられていることを実感し、自分自身を喜びと感謝をもって受け入れることができる。
2. 目に見えない神の恵みを、常に感謝と喜びをもって受け止め、神に愛され、人にも愛され、喜びをもって人と関わることができる。
3. 自分と他の違いを認めると共に、友だちと共に喜び、共感できるようになる。
4. 主体性を持って心を動かし、探求心、判断力、想像力をもち、創造的に様々なことに関わるようになる。
5. 感じたこと、考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現力、想像力を身に付ける。

2 本年度の重点目標（学校評価の具体的な目標や計画）

【重点目標】

- ・教育課程、指導計画の内容を確認し、新たに年間カリキュラムを作り替え、子どもの育ちに着目して計画し、実践していく。また、キリスト教保育の年間主題を「ことばに満たされて～ひびきあう～」とした。
- ・保護者や地域との連携を深め、信頼される温かな幼稚園づくりを目指す。
- ・外部講師による絵画造形活動を通して、教員の資質向上を図る。また、様々な行事の内容も見直し、より保護者も園の活動に積極的に参加したくなるようなものにしていく。
- ・特別支援を必要とする園児に対する理解を深めるため、巡回指導の臨床発達心理士から助言を受ける。
- ・新しい教育要領の中にある「卒園までに育てたい10の姿」を研修テーマとし、その姿に向かうための活動を各学年で考え、取り組んできた。

乳児

- ・母親と離れて新しい環境で過ごすことへの不安を解消し、安心安全に過ごし、楽しさを見いだせるように援助する。
- ・一人一人の生育歴や生活環境、個性を理解し、保育教諭の共通理解を図る。
- ・自立を目的とし、お手伝いを初め乳児自らが生活に必要なことを進んで行えるよう指導、援助を行う。
- ・排泄の自立・健康な体づくりの為に、散歩の機会を多く設け、乳児園庭だけでなく幼児園庭や公園へも出かけて体を動かす。

幼児

- ・安心感や信頼感が得られる環境の中、友だちの良さに気付き、心も体も動かして意欲的に活動するように援助する。自己肯定感がもてる子どもを育成する。
- ・友だちとのかかわりを深め、協同性を育む豊かな体験や活動ができる保育を創造する。
- ・園内環境に留まらず、近隣の地域環境を利用してより多種多様な経験ができるよう計画を立てる。
- ・小学校教育へのなめらかな接続を視野に、人間関係・コミュニケーション能力、規範意識等を身に付けさせる。
- ・基本的な生活習慣を見直し、一人一人の課題について保護者と共に見直し改善に向けて努力する。また、生活力の向上を図るため、お手伝いや運動にたくさん取り組む。

3. 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果評価点は A：十分に成果があった B：成果があった C：少し成果があった D：成果がなかった

評価対象	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価点	こども園としての反省と改善策	評価点	意見
保育の計画と実践について	<ul style="list-style-type: none"> ・園の理念・教育課程、指導計画の内容を確認し、教職員の共通理解を図り教育の質を高める。 ・キリスト教の「愛の精神」について学ぶ。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保連携型認定こども園教育保育要領の理解を全教職員で積極的に推進し、実態を把握しながら日々の保育の改善に繋がる研修を継続していきたい。 ・毎月「キリスト教保育誌」を読み合い年間主題について意見交換を進めた。幼児の具体的な場面を話し合うことでキリスト教の「愛の精神」を共通理解できた。 ・外部講師による年間カリキュラムの研修が3年目を迎えた。園の理念や教育方針を踏まえて、早期にカリキュラムを編成することに教員が前向きに取り組んでいる。昨年度に増して意欲的に計画を立て、教員一人一人のアイディアが生かされるようになった。昨年同様、日常の活動から行事に結び付け、活動内容も充実させることで子ども達の成長へとつなげることができた。引き続き、カリキュラムの見直しや教材研究を通して、より良い保育を子どもたちに提供できるよう努力していきたい。 ・昨年ノートパソコンを担当保育者に1台ずつ用意したことで、業務の負担軽減を図れた。また、連絡を電話で受けなくなった分、保護者と接する機会も減ってしまったが、担任から電話連絡を行ったり、迎え時や給食当番等保護者が来園する機会にコミュニケーションをとるよう心掛けている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保連携型認定こども園教育保育要領は保育の基本であるから、全教員で学び保育の質の向上に繋げていくことが大切である。その為に、カリキュラムを編成し、業務内容の改善がなされ、それが子ども達の成長に繋がったことは、園内に展示されている子どもたちの作品や絵画展を見てもよく感じられる。また、子ども達の日々の生活を垣間見ても、はつらつとして生き生きと楽しんでいる様子が伺え、効果を感じる。そして、子ども達の表情が明るく大変穏和であることから、援助の細やかさを感じる。 ・「ひびき合う」などの園だよりから、キリスト教保育の温かさや、職員全員が子どもに愛情を注いでいることが伝わってくる。 ・外部講師の影響からか、子ども達が絵を好きになり、楽しみつつ集中して描いていることが作品からも窺える。 ・母の日、父の日、クリスマスなどで、園で作ったプレゼントの質が向上しており非常に感動している。これは、教師の指導の賜物と思う。 ・アプリの導入は有効であり、業務内容が改善されたことは非常に良いと思う。

<p>保育のあり方、乳幼児への対応</p> <p>発達障害児の援助</p> <p>食育の充実</p>	<p>乳幼児の生活や発達に即した援助について</p> <p>異年齢交流</p> <p>預かり保育</p> <p>行事のみ直し</p> <p>食育</p> <p>保健・安全指導</p> <p>障害の特性や個別の支援方法について</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスの担任だけでなく、全教職員が幼児一人一人の内面を理解し優しく温かな援助を行い、発達課題について日々検討している。乳児と幼児の教員のコミュニケーションを多く図ることで、異年齢のかわりも増し、子ども理解が深まり、教員同士のつながりも深まってきた。 ・異年齢交流の機会を意識的に多く持つことで、子どもの育ちにつながっている。大きい子は小さい子に優しく、小さい子は大きい子への憧れを持ち、互いに学び合い刺激し合っている。 ・子どもたちに片付けや掃除の楽しさを伝え、子どもと共に環境を作り上げるよう心掛けた。家庭でのお手伝いにつなげていきたい。 ・預かり保育担当の保育者に正規職員2名を配置し預かり保育中の保育内容をカリキュラム化した。日中からの遊びや育ちに合った午後の遊びを計画することで、子どもの活動が充実し、成長に繋がっている。 ・行事は毎回の計画時と事後に検討会議を行っているため、昨年度の反省を生かして本年度を計画している。保護者が参加する行事についてはアンケートを記入してもらい、反省に役立っている。 ・給食は勿論のこと、おやつも給食室で手作りを基本としている。メニューを伝え、料理に合ったカトラリーを選ばせることで食事のマナーも学んでいる。 ・特に乳児は注意を払い、室内の衛生管理、安全管理を日々チェックしている。 ・幼児は別館と本館の間に行動があるため、交通安全教室で道の渡り方を指導してもらい、お散歩や帰りの道でも子ども自身が注意を払えるよう教員が指導している。 ・巡回指導のカウンセラーによる個別指導の下、具体的な手立てを保育者間で共有し、保護者と面談してもらうことにより、保護者の子ども理解が深まり、子どもの成長がみられた。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めぐみこども園の良いところは、全教職員が全員の子どもをよく理解し、丁寧に関わっているため、安心して子どもを預けることができる。 ・年長、年中児は自ら率先してやることを見つけようとしていたり、年下や乳児の世話も積極的に行ったりする姿も見られるようになり、親としても嬉しい限りである。縦割り保育ではないが、同じ効果が得られているように思われる。 ・生活経験や直接体験に欠ける子どもが増えているように感じる中、園側で補おうと努力していることを感じる。 ・様々な家庭の事情から預かり保育の人数が増えているが、充実した活動内容が考慮されており、安心して利用している。おやつは市販のものが少なく、子どもの体に対する暖かな配慮を感じる。 ・めぐみこども園は給食が美味しいことで定評があるので、このまま手作り給食・手作りおやつを続けてほしい。また、野菜作りなどを通して食育教育も深めてほしい。 ・感染性胃腸炎、インフルエンザ、新型コロナウイルス等感染拡大しやすい病気が沢山ある中、集団生活おける対応は注意と対応が必要だ。最新の情報をキャッチして子どもたちが安全・安心して過ごせる環境を整えるべきだ。教職員も情報を共有して、事が生じた場合は適切に対応してもらいたい。 ・発達障害の子どもの研修は今後も継続して行ってほしい。また、巡回指導のカウンセラーの指導があることは、教員だけでなく保護者の安心につながることだ。保護者の子ども理解も深まっていくことを望んでいる。
--	--	---	---

<p>遊びの充実と子どもの育ちについて</p>	<p>友だちとのかかわりを深め、協同性を育む体験や充実した環境の工夫と援助について</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が自己発揮できる場面や友だちの良さを認め合い仲間づくりができる環境を設定している。また、友だち同士のかかわりを深め、一つの目標に向かって協同する体験や活動ができる環境を整えたことで、自信を持つ姿が伺えた。 ・園外保育などで思い切り体を動かす経験をしたり、豊かな自然に触れ合う機会を多くもつことで、クラスの一体感が生まれた。このような機会を通して体力向上、道徳性や豊かな感性の芽生えにも繋げていきたい。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園での積み木遊びや砂場でのダイナミックな遊び、アルチックでの活動を見ていて、充実した園生活と感じる。子どもはこのような遊びを通して、友達の良さに気づき、アイデアにも共感して、仲間意識が生まれると感じた。行事を通して、ごっこ遊びの充実やクラスのまとまりを感じられる。 ・園外保育はスクールバスの活用で、体験活動の幅が広がり充実した時間を過ごしていると思う。 ・野菜作りから食育体験へと繋げていく活動も意義深い。また、プランターや鉢植えの花も子ども達の手で植え替えをしたり世話をしており、情操教育として有効である。
<p>小学校教育・家庭との連携について</p>	<p>規範意識を高め、小学校入学への滑らかな接続を図る</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートが、家庭での生活を知る良い機会となった。睡眠にに対する意識が低いように感じられたので、理解を働きかけた。小学校生活に向けて不安を抱えている保護者が多く見られたが、子ども自身は例年に比べても自立している。 ・体力作りとお手伝いが生活力の基盤となるため、日々繰り返し経験させる取り組みを行った。時間の意識、持ち物の整理整頓など基本的な生活習慣を見直し、「できることは自分でやる」ことで、自信をつけるための研修を重ね実行した。 ・公開保育を実施し、小学校の先生方へ当園の保育や子どもの実態を見て頂く機会とした。 ・5歳児は近隣の小学校訪問をして1年生の授業参観をし、小学校の雰囲気味わったことは有意義な経験となり、小学生への意識が高まった。 ・交通安全教室を通して、通学の心得や安全な歩行について学ぶ機会をもった。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多数の小学校へ入学することをふまえて、様々な「生きる力」を育み保育していくことで、こども園で培った学びや道徳性などが、小学校以降の生活や学習に生かされていると思う。 ・小学校を見学しただけでも、子ども達は学校への意識が高まると思う。小学校の先生と連携を深めてほしい。 ・教職員が近隣の小学校へ授業参観に行き、卒園生を励ましているとの伺い、とても意義深いことと思う。今後も継続してほしい。 ・近年、子ども達を取り巻く環境が様々に変化して、生活力の乏しい子どもが増えていると思う。子どもだけでなく、子育てに自信が持てない親も多い。幼稚園では子どもと親の教育もしてほしい。

<p>教師としての資質や能力・良識・適正</p> <p>研修と研究</p>	<p>専門家としての能力・良識・義務</p> <p>保護者対応</p> <p>地域の自然や社会との関り</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師としてのプライドを持ち、園外においても言動に十分気を付けている。 ・組織の一員として各々の役割を果たし、教職員同士尊敬の気持ちを持ち人間関係を大切にしている。 ・子どもを取り巻く社会情勢に常にアンテナを張り巡らせている。 ・個人情報等守秘義務は遵守している。 ・静岡県・清水地区の幼稚園振興協会による研修会を初め、キリスト教保育連盟、静岡県子ども美術の会、その他の大学付属幼稚園主催の研究協議会や大学主催の研修会等、有意義だと思われる研修会には進んで参加している。 ・教員は研修会での学びをすぐに保育に活かしている様子が多くみられる。子ども理解を深め、更に質の良い保育を実践していくための良い学びとなっているので、今後も積極的に研修会へ参加していきたい。 ・保護者には誠実な態度をとり、子どもの育ちについて理解と協力を頂けるようコミュニケーションをとっている。 ・保護者からの意見は真摯に受け止め、園長はじめ教職員で話し合い、改善できることは即実行に移している。 ・お散歩マップを作成し、地域の道路や施設（公園など）の環境を把握し、自然のみならず安全面に関しても注意深く見直しをした。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めぐみこども園の教職員であることを常に心に留めて建学の精神を大切にしていくことで、地域の人々から信頼される園になる。卒園生もこの園をずっと愛し見守っていることを忘れないでほしい。 ・研修会に参加することは保育時間を削っていると思うが、それ以上に有意義な成果が得られると確信する。可能な限り園外に出て見識を深めるとよい。また、それを園に持ち帰って教職員で共有し保育を充実させることを望む。 ・桜橋工事に伴い、園周辺の道路の交通状況が以前に比べて増加している。園から出かける時、散歩等は十分気を付けてほしい。
---------------------------------------	---	--	--